



調整等を担当する医療専門職 地域包括支援センター 保健師

○地域を担当する医療専門職 保健師 1 名、理学療法士 1 名

○役割 健康福祉課（包括）：介護保険、総合支援事業、介護予防事業、権利擁護（保セ）：健診事業、重症化予防、健康増進計画等

住民課：後期高齢者医療、データヘルス計画、財務

社会福祉協議会：老人クラブ、リハビリ友の会、各種ボランティア育成

○庁内連携 一体的担当者連絡会：年 4 回程度予定 【各ワーキンググループ】

○関係機関連携：石川県後期高齢者医療広域連合と協議の場合（R5. 6. 6 企画調整担当者意見交換会、8. 6 協議の場合、10. 30 一体的実施事業研修会）

R5. 7. 27 当事業連絡会【コア会議】：年 1 回

志賀町の高齢者の保健事業と介護予防等一体的実施について

【概況】能登半島のほぼ中央に位置し、西は日本海に面しており、東は眉丈山に連なる丘陵地帯。

産業（%）：第 1 次 9. 5、第 2 次 31. 4、第 3 次 59. 1（R5 年度）

人口：17, 771 人、高齢化率 46. 9%、75 歳以上 4, 871 人（R6. 4. 1 現在）

日常生活圏域：2 つ（志賀・富来）生活圏域高齢化率：志賀 41. 8%、富来 57. 2%

【地域の健康課題・分析】 *KDB システムより抽出

*評価指標：①平均寿命・平均自立期間の県との比較

R5 年度	平均寿命（前年比較）		平均自立期間（要介護 2 以上）	
性別	男	女	男	女
町（歳）	82. 4(+0. 8%)	87. 8(+0. 4%)	82. 0(+1. 8%)	84. 0(±0. 0%)
県（歳）	82. 0(+0. 2%)	88. 1(−0. 1%)	80. 5(+0. 2%)	84. 9(+0. 6%)

②1 件当たりの介護給付費の県との比較

（円）	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R5-R4
町	85, 906	84, 189	84, 857	668
県	70, 980	69, 621	69, 220	-401
町-県	14, 926	14, 568	15, 637	1, 069

*健診：R5 年度受診率 34. 9%＞石川県 30. 6%。県内 5 位。

*医療費分析（%）：石川県より高い割合の疾患

R5 年度	がん	筋骨格	糖尿病	脳梗塞
町	29. 5	24. 1	9. 6	7. 5
県	26. 7	25. 0	9. 1	7. 3

*死因：心臓病 36. 6%＞石川県 27. 7%

*介護：認定率 18. 1%と石川県の 18. 4%よりやや低い。

要介護者有病状況…「心臓病」59. 4、「筋骨格系」47. 2%、「糖尿病」30. 3%、「脳血管疾患」19. 0%。石川県より高い疾患は「糖尿病」

新規の介護保険申請理由は、「認知症」「関節疾患・骨折転倒」が同率 1 位。3 位は「脳血管疾患」である。80 歳以降に介護保険申請が急増（*手作業抽出）

【企画・調整等】

○取り組む方向性…目標『健康寿命の延伸』『安心して生活できる地域づくり』

「脳・心・腎」に係る疾患は加齢に伴って突如に発症する疾患ではなく、長年の生活習慣の積み重ねである。国保からの継続事業とする生活習慣病の重症化予防と、身体・生活に支障を持っても自立支援・社会参加ができる体制づくりを、保健部局や社会福祉協議会と協働・連動して取り組む。

健康寿命延伸にむけた教育・育成の場を提供し自助互助活動を支援する。

○現状把握・分析の上、具体的な活動計画、実践、事業評価。関係機関との調整等

【ハイリスクアプローチ】～優先対象者を抽出し個別支援を行う活動～

- ①生活習慣病重症化予防（糖尿病性腎症、脳血管疾患再発予防、心不全）訪問
- ②健康状態不明者の状態把握、必要なサービスへの接続事業
- ③多剤・重複投薬者等への相談・指導事業

【ポピュレーションアプローチ】～住民向け集団教育、主体的な活動育成～

- ①フレイル・認知症・脳血管再発・食と口腔・服薬等の予防セミナーの開設
- ②地域住民活動者の育成講習と活動支援

（認知症チームオレンジ、シルバー・リハビリ体操指導士、リハビリ友の会）

- ③集う場の再開・新規立上（**仮設住宅**、そくさい会、認知症カフェ、住民主体 B）
- ④ケアマネジャー等への自立支援・重度化防止ケアマネジメント教育の開催やケアプラン点検・セミナー等の実施による専門職のアセスメント力の向上